

# がん臨床センター設立

## 診療改善へ国内外大学と連携

### 青森労災病院(八戸)



青森労災病院に設置される「がん臨床センター」のセンター長に就任する真里谷靖副院長＝2月下旬、八戸市

八戸市の青森労災病院(玉澤直樹院長)が、がん治療の現場で改善すべき課題を国内外の大学などと共に臨床研究する「がん臨床研究センター」を設立する。放射線治療科部長の真里谷靖副院長(64)をセンター長として、患者への身体的ケアや精神面の支援といった複数のプロシエクトチームを立ち上げ、4月1日から病院内に事務局を置く。真里谷副院長は「地域のがん治療のさらなる診療改善に向けて取り組んでいきたい」と話す。

(松橋広幸)

同病院は2014年「青森県がん診療連携推進病院」の指定を受け、地域の中核的な役割を担う病院として放射線や手術、抗がん剤を使った化学療法、緩和ケアなど専門的な医療を提供。20年には療養中の就労支援などを包括的に行う「がん診療センター」を病院内に新設するなど、先進的な取り組みを進めてきた。研究センターに設置するプロシエクトチームは、▽がん患者への身体的ケア▽こころの支援▽がん関連病態の多様なデータを横断的に調べるトランスオミクス解析▽放射性核種内用療法患者の身体影響評価▽を行う4チーム。弘前大や帝京大、スウェーデンのストックホルム大の医師らがチームに加わり、同病院の医師や看護師、臨床心理士と共に臨床研究を行う。

各チームは、同病院で高精度放射線治療を行う限局性前立腺がん患者が、治療中や治療終了後の早期に悩まされる排尿や排便に関する不快症状の苦痛軽減に取り組む。このほか、臨床心理士によるがん患者のメンタルケアに関する検討、最新機器によるがん患者の生体内情報の解析などを通じ、がん診療の現場における、さまざまな課題を解決すべく研究を進めていく。真里谷副院長は「臨床研究の本質は現場にある。青森労災病院と国内外の仲間たちが密に連携し、患者にとってより良い診療を提供していければ」と語った。